

## 公民館事業レポート

### 海老が作寿大学 「歴史講座」～食べ物・食事・食文化～

今回の講師は、船橋市郷土資料館勤務の、学芸員 小田真裕先生。資料館では、古文書講座も開いておられる、知る人ぞ知る先生。

さて、本日の演題は、二つ。「海老ケ作」という地名の由来。船橋の地名研究家の第一人者、滝口さんの説を引用しながら、定説は無いが、「この地には、海老のように曲がった谷があり、水がわいていた」ことからつけられた、というのが、有力な地名の起源らしい。また、「谷地形」の場合、「作」が末尾につく地名が散見されるとか。

次に演題は、がらりと変わり、「船橋の食文化について」話のスタートは、縄文の昔にさかのぼる。

この辺りは、「海老ケ作台遺跡群」といわれ、「市内最大の縄文時代環状集落」なのだそうである。石器や土器が多く発掘され、貝塚も発見されている。そのことから、当時の食は、貝類、イワシなど魚類、キジ・カモの鳥類、イノシシ・鹿など獣類だったことがわかる。

それから話は、とんで、とんで一万年後の江戸時代。船橋の海岸に近い漁家と飯山満地区を代表とする農家の日常食。前者は、麦飯に魚介類、後者は、麦飯に漬物類、というものだった。いわゆる、「地産地消」!

そして話は、現代「令和」に飛び、郷土料理・伝統料理の話。「船橋らしいと思う食品は？」の調査結果については、小松菜、ホンビノス、梨、海苔、ニンジン、あさり、落花生だとか。

話は、一万年前から現代まで……。講師、受講者の皆さん、共にお疲れ様でした。受講者の9割が女性だったことから、食に関する話は、興味深く聞いてもらえたのではないだろうか?

令和6年度の寿大学は、4月に希望者募集、5月より開講です。興味のある方、ぜひご参加ください!  
(編集委員 揚田)



4月からの寿大学の募集については、1面をご参照ください。皆様のお越しをお待ちしています!

## 新! ふるさとウォッチング



( 木戸川遊歩道 )



木戸川遊歩道を知っていますか?平成16年から約10年を費やした木戸川改修工事により、両岸の土手に遊歩道が整備されました。木戸川四号橋(松ヶ丘二丁目付近)から水神橋(古和釜町)までの約2.5キロです。四号橋から下流に向かってあゆみの橋、あさひ橋、こわな橋、鎌田橋、古和釜橋、水神橋と橋も架け替えられたり新設されました。川そのものも改修前に比べ川幅全体が広くなり、土手と流れの間に小さな河原もあります。

この遊歩道、四季折々天気の良い日には多くの方が散歩やウォーキング、ジョギングを楽しんでいます。自然に目を向けるとさまざまな植物や野鳥を観察できます。春から初夏にかけては雉の恋の季節なので、鎌田橋から水神橋あたりにかけて頻りに鳴き声が聞け、姿を見ることが出来ます。かつて真っ白い雉がいて新聞の話題になったこともあり、私も目撃しました。

春になって目を楽しませてくれるのは桜です。あゆみの橋付近から鎌田橋にかけての右岸の土手に植えられています。あゆみの橋付近に植樹したのは「八丁歩桜の会」の人々で、あさひ橋から鎌田橋までを植樹したのは「木戸川の環境を守る市民の会」の人々です。「ジンダイアケボノ」という桜を中心に「マイヒメ」や「ヤマザクラ」などが植えられています。また、鎌田橋近辺にはハナモモや金木犀、ソヨゴ、エゴノキ、コブシ、イロハモミジ、マンサクなども植えられています。それぞれ名札が付いているので鑑賞の役に立つ事でしょう。「ジンダイアケボノ」はソメイヨシノと比べて寿命がやや長い可能性があり、樹が小ぶりで病気に強いという特長があります。「木戸川の環境を守る市民の会」では毎月定期的に樹木の管理や周辺のゴミ拾い、草刈りなどを行っています。

水辺の生物はどうでしょう?川で遊ぶ子供たちによるとドジョウやヨシノボリがいるそうですが私は見たことがありません。しかし水辺に小鷺がいるので小魚や貝類がいるのかもしれない。



河川は整備されましたが水質はどうでしょうか?橋の上から見る限りではきれいな水に見えるのですが、水質検査をするとどういふ結果になるか興味のあるところです。大穴川や三咲川、さらに周辺からの生活排水の流入も気になるところです。フナやメダカが泳ぎホタルが舞うような豊かな生態系を取り戻し、それを未来に残すためにも、私たち一人一人が環境を守る意識を持つことが重要だと思います。

(編集委員 遠藤)